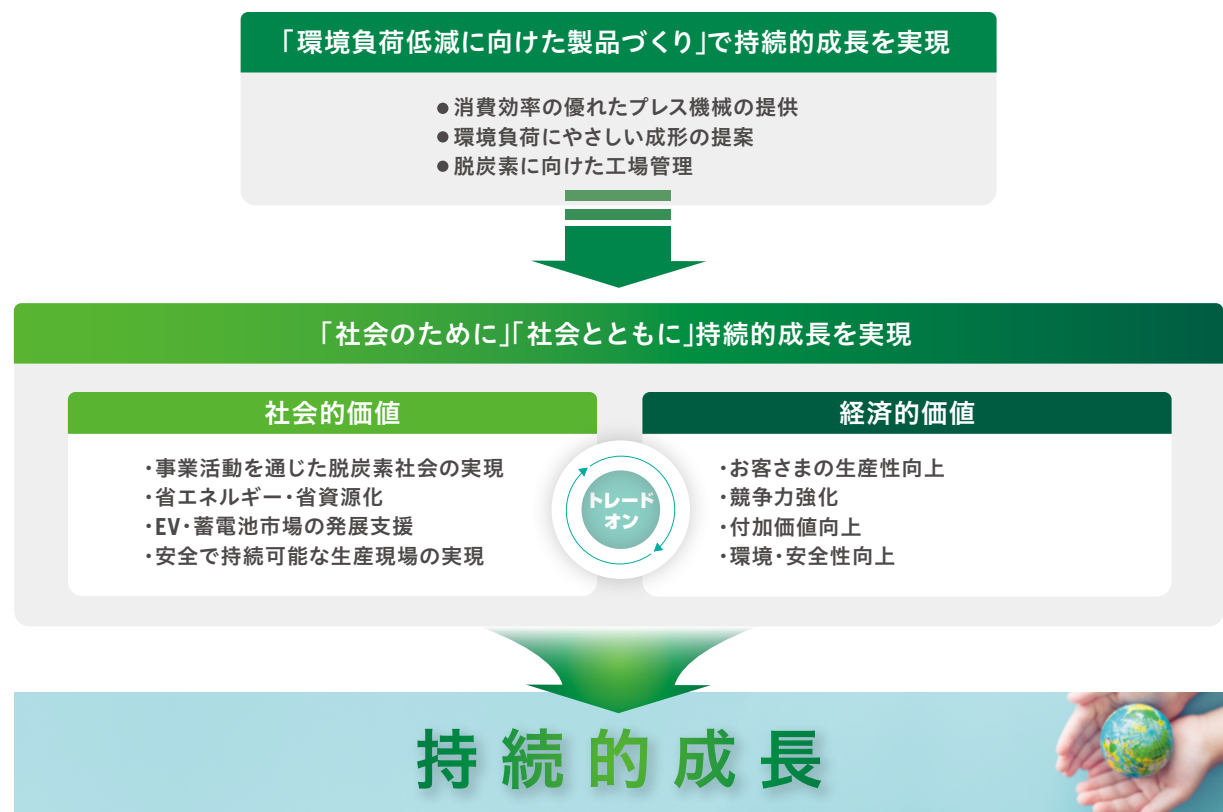


環境対策・社会貢献

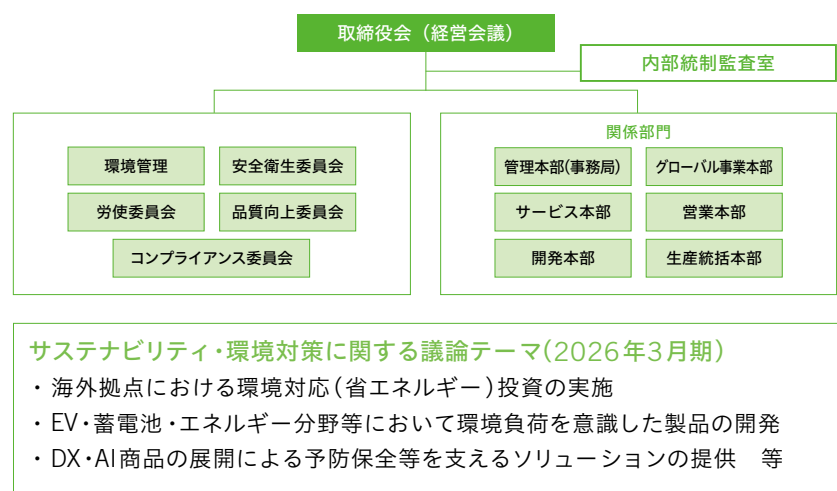
当社は「AIDA Growth 30」において、環境負荷低減に向けた製品づくりを重要な取り組みの一つと位置づけています。事業活動における脱炭素化や省エネルギーを推進するとともに、長年培ってきた成形技術と開発力を活かし、環境に配慮した成形技術や環境負荷低減に貢献するプレス機械等の提供を通じて、EV・蓄電池・エネルギー関連分野をはじめとする社会課題の解決に貢献しています。また、お客さまの生産現場における環境負荷低減、生産性向上、安全性向上を実現する製品・ソリューションを提供することで、社会的価値と経済的価値のトレードオンを推進し、「社会のために」「社会とともに」持続的成長に繋げていきます。



ガバナンス

当社は右図の「サステナビリティ・環境管理運営体制」のとおり、社長を最高責任者、事務局を管理本部とし、各部門や、各委員会を通じたサステナビリティ・環境管理運営体制を構築しており、重要事項については経営会議、取締役会まで上程することとなっています。次頁「リスク管理」に記載のとおり、取り組むべき戦略や課題の設定、リスクや機会の取り組み状況の報告等はこの枠組みのなかで運営されています。

サステナビリティ・環境管理運営体制(2026年3月31日現在)



戦略

当社グループでは、気候変動等に係るリスクについて、全社的な重要リスクの一つと位置づけており、物理的リスク、法規制、マーケット等の移行リスクについて、必要に応じて対応案の策定を進めています。また脱炭素、省エネルギー、省資源をはじめとする環境対応を当社の大きなビジネス機会と捉え、2050年のカーボンニュートラル達成を目指して、SDGs関連課題の解決と企業価値の向上に努めています。

潜在リスク
物理的リスク ● 異常気象に起因する洪水や自然災害等により、事業拠点やサプライチェーンに影響が生じた場合、販売機会の逸失や設備復旧費の増加に繋がる可能性がある。
移行リスク ● 製品・サービスに適用されるエネルギー効率規制の強化により、製品の設計・開発への対応が不十分な場合、販売機会の逸失に繋がる可能性がある。 ● 環境税・炭素税導入による税負担の増加並びに製品原価の上昇に伴い、収益に影響を及ぼす可能性がある。 ● 自動車の電動化、軽量化の進展に伴う代替原材料の研究開発費の増加が、収益に影響を及ぼす可能性がある。 ● 気候変動等への取り組み姿勢の評価変化により、企業価値が低下する可能性がある。
機会
● 生産活動における省エネ設備の導入やエネルギー利用の効率化によるコスト削減で、商品競争力の向上が期待される。 ● 自動車の電動化、軽量化、代替エネルギー活用、省エネや生産性向上に貢献する製品の開発により、製品の付加価値向上が期待される。 ● 自然災害発生時等、万全なサービス体制による迅速な対応(機械復旧/消耗品納入)により、顧客からの信頼向上と販売機会の拡大が期待される。

リスク管理

サステナビリティ基本方針のもと、アイダ環境方針、個人情報保護規程、アイダグループ人権方針、内部統制システム整備に関する基本方針、アイダグローバル経営管理規程、コンプライアンス管理規程、事業継続管理マニュアル等の各種規程を制定してリスク管理を行っています。また、機会については、自動車の電動化や軽量化等の市場ニーズを踏まえ、それに対応した製品の技術開発を推進するとともに、省エネ性や生産性を高めた競争力の高い製品の開発機会と捉えています。これらについては、経営会議、取締役会での議論を踏まえ、取り組むべき事項を中期経営計画の具体的な戦略として織り込んでいます。リスク・機会の取り組み事項の進捗状況については、リスク管理上の重要事項に関し、関連部門によるリスクの分析と対応策の検討結果を適宜報告するとともに、四半期ごとに、経営会議へ報告しています。また、機会に関する取り組み事項の進捗についても、経営会議、取締役会にて毎月進捗状況を報告しています。

指標と目標

当社グループではISOの枠組みのもと、法規制の遵守継続(大気、水質、騒音)、廃棄物の資源化推進並びに発生量の維持、省エネルギーの推進、環境保全への取り組みを推進すべく、環境目標を設定しています。

環境目的	2026年3月期 目標	2026年3月期 実績
廃棄物の資源化推進と発生量維持 (再利用・再生利用の推進)	● 発生量^{※1}維持目標 相模原：1,600t以下 白山： 95t以下 ● 産業廃棄物資源化率 相模原： 86%以上 白山： 70%以上	● 総発生量 相模原：840t (目標達成) 白山： 85t (目標達成) ● 産業廃棄物資源化率 相模原： 85%(目標未達成) 白山： 76%(目標達成)
省エネルギーの推進	● エネルギー総使用量(原油換算) 相模原：4,400kL以下 白山： 240kL以下 ● CO₂排出量(原単位換算) 相模原： 13.0t-CO₂/kh (工場稼働時間)以下 白山： 11.0t-CO₂/kh (工場稼働時間)以下	● エネルギー総使用量(原油換算) 相模原：3,530kL (目標達成) 白山： 202kL (目標達成) ● CO₂排出量(原単位換算) 相模原： 2.1t-CO₂/kh^{※3} (工場稼働時間) (目標達成) 白山： 5.2t-CO₂/kh (工場稼働時間) (目標達成)
	主な取り組み 廃棄物の適正分別、梱包資材の削減・再利用、資源の再生利用推進、切削液の延命化等 主な取り組み 省エネ活動の推進、電力負荷の平準化、エアー漏れ対策、高効率設備の適正運転、空調・照明の適正管理等	

※1 発生量：一般廃棄物と産業廃棄物の合計 ※2 相模原の集計範囲(本社相模工場、津久井工場、下九沢工場)

※3 2023年11月からFIT非化石証書付電力RE100対応を導入したことにより、相模原の3事業所が使用する電気によるCO₂排出量を間接的に削減

環境対策・社会貢献

マテリアルバランス



※1 2026年3月期の当社製造工程における環境負荷(各数値は小数点以下を切り捨て) 集計範囲：アイダエンジニアリング(本社相模工場、津久井工場、下九沢工場、白山工場)
※2 CO₂排出量はFIT非化石証書付電力RE100対応の導入を反映して算出

2031年3月期に向けた環境目標

2025年3月期を基準年度として、環境負荷の継続的な低減に取り組みます。 ※ 中期経営計画で定める環境目標のうち、主要指標を掲載しています。



カーボンニュートラル取組方針

脱炭素、省エネルギー、省資源をはじめとする環境対応を当社の大きなビジネス機会と捉え、2050年のカーボンニュートラルを目指して、ESG課題の解決と企業価値の向上に努めています。

		取り組み実績	今後の取り組み
Scope1 Scope2	使用エネルギーの削減	● 事業活動における節電(LED導入、各種節電運動) ● 本社工場への高効率ガスコージェネレーションシステム(熱供給発電)及びジェネリンク導入 ● EV社用車導入及びアイダEV充電ステーション開設	● 本社工場の建替えに伴い、再生可能エネルギーのさらなる活用予定 ● 工場への省エネ設備導入等によるゼロエミッション社屋の実現予定
	クリーンなエネルギーへの転換	● 太陽光蓄電システム導入 ● カーボンオフセット都市ガス(地球環境貢献型)採用 ● 実質的に再生可能エネルギー由来の電力導入(FIT非化石証書付電力RE100対応)	
継続取り組み中の内容			
Scope3	環境負荷を軽減する商品の開発・販売	● 低CO₂素材活用を可能とするプレス関連機器の開発 ● 顧客、ユーザーの環境負荷軽減ニーズに応えた工程見直し等への対応	
	環境保全への取り組み	● 環境保全・生物多様性を実現する取り組みとして「森をつなぐアクション」を通じた森の再生支援を実施	
環境情報開示要請への対応等		● CDP気候変動質問書への回答 ● TCFDに沿った情報開示 ● カーボンオフセット都市ガスバイヤーズアライアンスへの加盟	CDP Discloser 2024 CARBON OFFSET CITY GAS

サプライチェーン全体での温室効果ガス(GHG)排出量及び割合(2026年3月期)



地域社会との共創を通じた持続可能な未来づくり

当社は「地域社会と連携した持続的な地域価値創出」を目指し、事業活動に加え、次世代育成、スポーツ振興、地域活性化に取り組んでいます。中期経営計画に掲げる持続的成長と企業価値向上の実現に向け、地域社会の持続的な発展に貢献していきます。

SC相模原とのパートナーシップを通じた地域貢献

当社は、2022年より相模原市をホームタウンとするJリーグクラブSC相模原への協賛を通じて活動を支援しています。SC相模原が掲げる「私たちは地域と一体となり、ともに歩き、ともに育ち、互いに誇れる関係性を築きます」というクラブビジョンに共感し、協賛を通じて地域活性化や青少年育成の取り組みを支援しています。

また、SC相模原とともに環境保全プロジェクト「森をつなぐアクションwithアイダエンジニアリング」を推進し、相模原市の森林資源の保全と活用を通じて持続可能な地域づくりに取り組んでいます。本活動は、森林について学び、木材に触れ、森をより身近に感じてもらうことを目的としており、地域団体や行政とも連携しながら実施されています。具体的な活動としては、従業員とその家族が参加する森林体験会の開催や、地域団体との協働による森林整備活動を実施しています。



提供:SC相模原



次世代育成支援

当社は公益財団法人相模原市スポーツ協会による、夢を追うこどもたちのチャレンジを応援する制度である「こどもの未来応援スポンサー制度」に賛同し、2024年10月から地元のサッカークラブ(相模原OSジュニア)のスポンサーとして支援活動を行っています。

2026年2月から3月にかけて、当社の名を冠した「アイダエンジニアリング夢カップ大会」を開催しました。近隣の市や県内のクラブチームを招待し、小学1年生から小学6年生までを対象に、学年ごとに計6回の大会を実施し、熱戦が繰り広げられました。

参加選手の競技力向上に加え、参加チーム相互の交流を深めるなど、こどもたちの成長をサポートする活動を通じて、地域の活性化、次世代育成及びスポーツ振興への支援を継続していきます。



スポーツを通じた地域共創と活性化

当社は、相模原市で開催される国際自転車ロードレース「Tour of Japan相模原ステージ」を支援しています。本大会は、国内外のトップ選手が参加する国際スポーツイベントであり、2026年大会には約24,000人が来場しました。大会を通じて地域内外から多くの人々が集まり、地域の魅力発信や交流機会の創出に繋がっています。

当社は地域に根差した企業として、大会への支援を通じてスポーツ振興と地域活性化に貢献するとともに、自治体や地域団体との連携を強化しています。こうした活動は、中期経営計画で掲げるサステナビリティ経営の推進や地域社会との共創による企業価値向上にも繋がっています。

今後も地域の皆さまとともに、誰もがいきいきと暮らせる持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。



提供:TOJ組織委員会



コーポレート・ガバナンス

取締役

代表取締役会長 会田 仁一	代表取締役社長 (CEO) 鈴木 利彦	取締役 執行役員 米内山 純一	取締役 (社外) (独立役員) 五味 廣文	取締役 (社外) (独立役員) 井口 功	取締役 (社外) (独立役員) 角 紀代恵

監査役

常勤監査役 望月 幹夫	監査役 (社外) (独立役員) 近藤 総一	監査役 (社外) (独立役員) 佐々木 清隆

執行役員

常務執行役員	尾崎 義則	サービス本部長
常務執行役員	橋向 喜春	開発副本部長、生産統括副本部長 (技術)
上席執行役員	大倉野 幸治	生産統括本部長
執行役員	小清水 孝志	生産統括副本部長 (技術)
執行役員	安部 秀樹	生産統括副本部長 (生産)

取締役及び監査役のスキル・マトリックス

氏名		社外独立役員	性別	主な専門的経験分野/特に貢献が期待される分野							
				企業経営	財務会計 金融 資本市場	リスク管理 法務 コンプライアンス	国際業務	営業 マーケティング	技術 研究開発	IT DX	人事 人財開発
取締役	会田 仁一		男性	○			○	○	○		
	鈴木 利彦		男性	○		○		○	○	○	
	米内山 純一		男性				○	○			
	五味 廣文	✓	男性	○	○	○					
	井口 功	✓	男性					○		○	
	角 紀代恵	✓	女性			○					○
監査役	望月 幹夫		男性		○	○	○				
	近藤 総一	✓	男性		○	○					
	佐々木 清隆	✓	男性		○	○				○	○

※ 「リスク管理・法務・コンプライアンス」については、製造物責任 (PL) の観点を含めています。

※ 上記は、各取締役・監査役に特に貢献することが期待される分野であり、各人の有するすべてのスキル・専門的知見を表すものではありません。

各取締役の選任理由、取締役及び監査役の経歴等の情報については、当社第91回定時株主総会招集ご通知、第91期有価証券報告書をご覧ください。

第91回定時株主総会招集ご通知
<https://www.aida.co.jp/ir/event/index.html#anc03>



第91期有価証券報告書
<https://www.aida.co.jp/ir/data/sr.html>

